

ホームページ amidanet 検索

・音声法話  
・仏教への招待  
・オンライン法事



# 蓮華座

Instagram アカウント  
【山田のお寺正定寺】




この夏のコロナ（デルタ株）の全国感染爆発とお盆前後の豪雨など、多くのご心配の中でお過ごしのことと思います。

正定寺では、お盆のお参りを感染防止対策をとった上でおつとめました。昨年より席の間隔を広げる等の対策をとる等でご不便もおかけしましたが、お参詣の皆さまにご協力いただいたことで、無事にお参りすることができました。

御礼を申し上げます。

また、夏休みの「正定寺子ども寺小屋」は今年五年目を迎えました。昨年はコロナ感染拡大により中止となりましたが、今年は感染の拡大を心配しつつも無事に全日程を過ごすことができました（次頁より特集）。

お寺が門信徒の皆さまや地域内外の方の人生の「ふれあい」や「よろこび」の場となることができるよう、今後も皆さまと一緒に歩ませていただきたいと思います。

正定寺住職 釋鴻志



## 人間も食器も、木も花も、命はみなワレモノ

栄松幼稚園跡地に建つ「樺風工房」には、電動ロクロ、手回しロクロ、土練機、電動ミルなど陶芸道具一式があります。平成四年三月に閉園した栄松幼稚園の遺品です。すべてプロ仕様の機械ですから、今も現役です。私が幼児教育にかかわった十六年間で、「わたしもあなたも、虫も花も、いのちはみなワレモノ」ということを生活の中で園児たちに実感してほしくて、宮崎県内で初めて本格的な陶芸を教育カリキュラムに取り入れました。三才児から毎学期、先生たちと学び、園児たちと制作しました。

ただ、灯油陶芸窯だけは経年劣化がはげしく、閉園後は窯焚きができない状態でしたが、昨年夏「第四回夏休み子ども寺小屋」に向けて、小型電気陶芸窯を個人購入しました。去年はやむなく中止した寺子屋でしたが、今年、寺子屋につどった子ども達二十名と陶芸制作ができました。一つは、オリンピックにちなんで「陶板メダル」（一人二個）の素焼き（七百度）への絵付けです。粘土からのメダル作りは、野口みつ子さん、吉川りつ子さん

に手渡すことができました。毎日の生活でカップを使って、ものを大切に作る心を養ってほしいと思います。

次の陶芸教室は、大人の定番です。壮年会や婦人会でも、「ぐい呑み」、「食器」、「花器」など、世界に一つしかない作品を作ってみませんか。コロナ禍で色々制限されている中ですが、陶芸教室ならできます。

前住職 尼子 玄章



### お仏事荘厳壇 完成

4月の「れんげざ」でお知らせした、本堂でのお葬儀（お骨葬）や別修法事などで遺影や過去帳（位牌）・お花などをお飾りする「荘厳壇」が完成しました。

3段 お骨葬など  
遺骨・遺影・位牌だけでなく、お供物、花束やアレンジフラワーなどもお飾りできます。

2段 ご法事（別修法事）  
遺影・過去帳・花束やお供物などがお飾りできます。

用途に応じて2段・3段で使い分けができます。

### 卒寿九十才のお祝い (ダーナ事業)

毎年、満九十才を迎えられる正定寺、門徒の方を、春の花まつり法要でお祝いし、記念の門徒式章を贈呈していますが、今年度は法要を中止したため、六月下旬に各地区の組長さんを通じてお祝いをお送りしました。

早速、九十才になれるご本人様やご家族の方よりお参詣の際やお電話などで多くのお礼のお言葉をいただきました。

今後とも仏さまのお慈悲の中で元気で過ごして下さいませう、お念じ申し上げます。

合掌

写真・斉藤明さん（長谷・七月撮影）  
式章をかけてお寺にお参り下さいました。

### 本堂の雨漏りを発見しました

本堂の北西（永代納骨処天井付近）で雨漏りが発生し、住職が屋根裏に上がって確認したところ、雨漏りを二箇所発見しました。

新燃岳噴火（平成二十三年）の火山灰が屋根瓦の隙間に詰まって雨水を浸透させ、雨水とともに火山灰も屋根裏に流入し、堆積していました。

被害の拡大を防ぐために、雨漏り箇所の修繕をします。修繕の経過は、寺報で報告します。

本堂屋根裏の雨漏りの状態  
8月12日 住職撮影

### 正定寺史 五 「お寺の梵鐘の歴史」

お寺をイメージするときに、「大きな釣鐘」をイメージする方が多いのではないのでしょうか。

お寺の釣鐘は、正式には梵鐘（ぼんしょう）といいます。朝夕の時報や除夜の鐘の時に鐘をつきますが、本堂の役割は「集會鐘（しゅえいしょう）」といって、お寺で法要や行事が始まる前に地域の人人々に参拝を促すためにつくものです。正定寺に梵鐘が据えられるようになったのは昭和三十一年。それまでは梵鐘はありませんでした。

正定寺の梵鐘は元々は山田城跡（旧山田総合支所の場所）に所在していました。西南戦争で犠牲になった官軍・薩摩軍の双方の犠牲者を追悼するために設置され、毎日朝夕の決まった時間についていたそうです。

その後、役場の移転に伴い、山田町から正定寺へこの梵鐘を譲ることについて議会で議論がなされ、梵鐘はお寺に移されることになりました。

しかし、お寺に梵鐘を据えるところがなかったため、お寺の正門（山門）と鐘を設置するための鐘楼が建設されることになりました。建設にあたっては、立派なものを建築をするために意見が衝突した棟梁同士が屋根根から転げ落ちるほどの喧嘩もあったそうです。

また、お寺の本堂に保存してある大きな「木挽き鋸」は、この建設工事のときに使われました。



お寺をイメージするときに、「大きな釣鐘」をイメージする方が多いのではないのでしょうか。

お寺の釣鐘は、正式には梵鐘（ぼんしょう）といいます。朝夕の時報や除夜の鐘の時に鐘をつきますが、本堂の役割は「集會鐘（しゅえいしょう）」といって、お寺で法要や行事が始まる前に地域の人人々に参拝を促すためにつくものです。正定寺に梵鐘が据えられるようになったのは昭和三十一年。それまでは梵鐘はありませんでした。

正定寺の梵鐘は元々は山田城跡（旧山田総合支所の場所）に所在していました。西南戦争で犠牲になった官軍・薩摩軍の双方の犠牲者を追悼するために設置され、毎日朝夕の決まった時間についていたそうです。

その後、役場の移転に伴い、山田町から正定寺へこの梵鐘を譲ることについて議会で議論がなされ、梵鐘はお寺に移されることになりました。

しかし、お寺に梵鐘を据えるところがなかったため、お寺の正門（山門）と鐘を設置するための鐘楼が建設されることになりました。建設にあたっては、立派なものを建築をするために意見が衝突した棟梁同士が屋根根から転げ落ちるほどの喧嘩もあったそうです。

また、お寺の本堂に保存してある大きな「木挽き鋸」は、この建設工事のときに使われました。